

第43回大会

中国・四国・九州地区

生涯教育実践研究交流会



- 期 日 令和8年5月16日(土)～17日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第43回大会実行委員会
福岡県立社会教育総合センター
- 協 力 風社の会（福岡県社会教育関係者の会）

テーマ 子ども・若者の自立と発達支援のあり方を問う

子どもの健やかな成長・発達は、教育関係者のみならず誰もが願っていることでしょう。残念ながら、不登校、暴力行為・いじめ、自殺した児童生徒を示す数字は深刻です。うつや摂食障害などの精神疾患も10代で増えています。一見「普通」の子どもたちも、スマホ・PCの長時間使用（ネット・ゲーム・SNS依存）、それに伴う生活リズムの乱れ、リアルな遊びや体験の不足など、心配な実態があります。コロナ禍は状況をさらに悪化させました。

親や教師など大人の保護や助けがないと一人では生きていけない子どもたちも、やがては自分の足で立ってこの世をわたっていかなければなりません。子育てが目指すところは「自立」といってもいいでしょう。自立を支える「生きる力」の育成には、体験が欠かせません。しかし、社会や生活の変化、過保護の風潮（あるいは虐待）などによって、多くの子どもが、大事な体験を欠いたまま大きくなっています。自立できない若者が増えています。本大会では、教育処方の一つとして、自立に必要な力を育む体験（たとえば、自主・自律、協力・共同生活、困難への挑戦など）を意図的に盛り込んだ「欠損体験の補完」プログラムを、これまでも提案してきました。

教育機会確保法（2016年）とその後の「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」（2023年）では、民間とも連携しながら学校内外で一人一人に合った多様な学びの場を整備する、学校に登校することのみを目標にするのではなく、子どもたちが「社会的自立」を図れるように支援するとしています。学校であれ第三の「居場所」であれ、「社会的自立」を目指すことが重要としているのです。そこに、どのような「自立のトレーニング」プログラムがあるのか、その支援体制はどうするのかが問われています。

自立に向かう発達支援のあり方はすべての子どもたちの問題です。学校、家庭、地域（民間団体含む）には何が求められるのか、何が大切なのか、社会教育は何ができるのか、改めて考えたいと特別企画を設定しました。

今年も「未来を展望する素材」となる24事例が集まりました。子どもの発達を支援し、自立を促す取組、地域の人づくり・つながりづくりに奮闘されている実践の数々に勇気づけられます。ご推薦いただいた各県実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

本会をご支援・ご指導くださいます福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターに厚く御礼申し上げます。

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人 大島 まな

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第43回大会 実行委員会委員

戸板 正哉（鳥取県）	鳥取県教育委員会事務局社会教育課	小園 貴寛（熊本県）	熊本県教育庁市町村教育局社会教育課
原田 尚（島根県）	島根県出雲市教育委員会	山平 敏夫（熊本県）	熊本県教育庁市町村教育局社会教育課
佐々木将光（島根県）	島根県益田教育事務所	小原 恵二（熊本県）	熊本県熊本市文化市民局生涯学習課
吉岡 康行（広島県）	広島県広島市立川内小学校	岡田 正彦（大分県）	国立大学法人大分大学
齋藤 裕磨（広島県）	広島県立図書館	山崎 充（大分県）	大分県立九重青少年の家
武原 智明（広島県）	広島県立生涯学習センター	竹内 一久（宮崎県）	宮崎県諸塚村教育委員会
正留 律雄（広島県）	広島県大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター	加藤健一郎（宮崎県）	宮崎県教育委員会生涯学習課
東川 絵葉（岡山県）	岡山県倉敷市立郷内小学校	小藺 正臣（鹿児島県）	鹿児島県立青少年研修センター
河本 潤（岡山県）	独立行政法人国立青少年教育振興機構国立吉備青少年自然の家	鶴木 孝夫（鹿児島県）	かごしま県民大学中央センター
赤田 博夫（山口県）	元（公財）山口県人づくり財団県民学習部	東原 辰巳（鹿児島県）	鹿児島県薩摩川内市教育委員会中央公民館
矢田部敏夫（山口県）	山口県長門市立菱海中学校	宇井 知隆（鹿児島県）	鹿児島県鹿児島市立西伊敷小学校
貞平 理恵（山口県）	まんま会	大城喜江子（沖縄県）	沖縄県浦添市立森の子児童センター
坂井 孝吏（高知県）	高知県黒潮町立大方中学校	大島 まな（福岡県）	公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム
濱崎 博志（高知県）	NPO法人高知県生涯学習支援センター	森本 精造（福岡県）	元福岡県飯塚市教育委員会
中尾 治司（愛媛県）	愛媛県伊予市立由並小学校	古市 勝也（福岡県）	学校法人福原学園九州共立大学
舟田 美加（愛媛県）	愛媛県宇和島市立吉田中学校	正平 辰男（福岡県）	福岡県飯塚市庄内生活体験学校
水野 浩司（愛媛県）	愛媛県教育委員会事務局管理部社会教育課	紫園 来未（福岡県）	オフィスしおん
関 弘紹（佐賀県）	NPO法人スチューデント・サポート・フェイス	菊川 律子（福岡県）	放送大学
鴻上 哲也（佐賀県）	前佐賀県伊万里市民図書館	木原 忠（福岡県）	前福岡県宇美町役場
池田 龍二（佐賀県）	ショッピングシティ アルタ	山田 明（福岡県）	学校法人福原学園九州共立大学
朝長 千恵（長崎県）	長崎県教育庁生涯学習課	比山 裕隆（福岡県）	福岡県教育庁教育振興部社会教育課
棕本 博志（長崎県）	長崎大学教育開発推進機構生涯教育センター	末富 寿典（福岡県）	福岡県立社会教育総合センター
武次 寛（長崎県）	長崎県社会教育支援「草社の会」		

Time Schedule 1st day 5.16 Sat.

9:15	10:00	10:30	12:20	13:10	13:50	15:40
受付	開会式	実践発表①	昼食	受付	実践発表②	
玄関ロビー	2F 講堂	第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室			第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室	

16:00	16:30	17:00	19:00
移動	特別報告 「社会教育って何だったのかーごく個人的な経験と想い」 報告者 鈴木 眞理 (青山学院大学名誉教授) 【2F 講堂】 フリータイム		第43回大会交流会 【2F 体育館】

第43回大会 交流会

■日時：1日目の夜 17:00～19:00 ■場所：2F 体育館

参加者、実践発表者、各県実行委員会委員が一堂に会して、交流を深める場です。
以下の内容で実施します。御参加をお待ちしています。

食事、各都道府県の紹介、歓談(名刺交換)、おらがまちの名物自慢(特産品)オークション

また、オークションの売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、御了承ください。

Time Schedule 2nd day 5.17 Sun.

8:30	9:00	11:30	12:00
受付	特別企画 ミニ講演とインタビュー・ダイアローグ 「子ども・若者の発達と自立を支援する ～何をめざすのか、そのために何をどうするのか～」 【第1部】「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない ～『声なきSOS』を受けとめる伴走型支援の現在とこれから～」 登壇者 谷口 仁史(認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事) 古市 勝也(九州共立大学名誉教授) 大島 まな(公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム理事長、九州女子大学名誉教授) 【第2部】「社会教育と連携した学校のプログラム改革 ～長期宿泊学習(4泊5日)がもたらす学びの質的転換～」 登壇者 益田 茂(福岡県添田町教育委員会教育指導主事) 白土 智章(福岡県立英彦山青年の家研修課長・社会教育主事) 聞き手 森本 精造(元福岡県飯塚市教育委員会教育長) 菊川 律子(放送大学名誉教授・社会教育士)	総括 閉会式	昼食
玄関ロビー	2F 講堂	2F 講堂	

ふるさと 自慢 ポスター展

■日時：5月16日・17日 ■場所：2F 講堂

大会参加中、参加者の皆さんが携わられている「むらおこし」「まちづくり」「ひとづくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞ、ご覧ください。



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／河本 潤 国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職
田中真奈美 福岡県教育庁北九州教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:25~10:30

1 こどもも大人も社会もwell-being ～ユースセンターまあぶるの取組から～

10:30~11:00

森年 雅子(岡山県真庭市) NPO法人manabo-de 理事長

過疎化により地域の高校が1校閉校になるなど若者の居場所が減少。第3の居場所でもある10代の秘密基地「ユースセンターまあぶる」が空き家を活用し2023年9月にオープン。子どもたちの声からアイデアを拾い上げ、大人が伴走支援。実施主体はNPO法人manabo-de(まなぼーで)。ユースワーカー、ボランティア、地域住民、行政の協力もあり大学生の活躍の場でもある。10代が運営に関わる駄菓子屋「ときドキ」、小学生への学習支援「真庭学習会」など若者主体で多様な活動を展開。中高生が助成金を獲得、不登校支援として学校・行政・家庭との連携で成果を上げている。運営規模の拡大、予算の安定化に向けて試行錯誤している。

2 こども対象事業を通じた地域の担い手づくり

11:10~11:40

中村 淳子(福岡県福岡市) 福岡市東箱崎公民館 主事
藤田 玲子(福岡県福岡市) 福岡市東区役所生涯学習推進課 こども育成調査アドバイザー

本公民館の「おじちゃんと一緒に冒険クラブ」「公民館からの挑戦状」という講座を通し、どのように地域の担い手を育成しているか紹介する。企画から実施まで、公民館が“つどう・まなぶ・むすぶ”の拠点となり、多様な世代と経験を共有しながら、持続可能なコミュニティ形成を推進している。

3 子どもをまん中に据えた地域学校協働活動の推進 ～五者連携による取組の充実を通して～

11:50~12:20

東 伸一郎(熊本県阿蘇市) 阿蘇市教育委員会 社会教育指導員

本市は小学校5校、中学校3校を有し、令和元年度までに全小中学校に学校運営協議会を設置。また令和元年度からは3中学校を網羅した地域学校協働本部を設置し、中学校区ごとに子どもをまん中に据えた特色ある活動に取り組んでいる。主な活動は①家庭教育支援②放課後子供教室③地域未来塾④各学校の様々な活動の4つであり、統括的な地域学校協働活動推進員のもと4人の推進員と各コーディネーターが活動の中心である。多くの大人の「認め、ほめ、励ます」言葉や関わりを通して子どもの自己肯定感の向上を図り、地域住民の生きがいづくりと地域の活性化を図っている。



第2会場● 2F 自由研修室

■司 会／貞平 理恵 まんま会 代表
今井 博志 愛媛のおやじ井戸端会議 顧問

分科会の進め方

10:25~10:30

1 えっ!何で国境離島に日本語学校? ～実は地域共創へのワンピ～

10:30~11:00

山上 福範(長崎県五島市) 学校法人九州総合学院五島日本語学校 校長
社会教育士

コロナ真っ只、「地域創生」と「人口減少対策」の一環で令和2年度設立。4者(五島市・長崎県・県立大学・学校法人)が相互に得意分野を生かし合い、留学生と地域が相互に生かし合い、校長(社会教育士)が学校と地域・関係者相互のメリットを「見える化」しながら繋いでいる。社会教育士としての校長のミッションは「共生そして共創へ」、三方以上良しでスパイラルに展開。「人を知れば事業が進む」の一心で相互の強みを持ち寄り、細くとも長く続く関係・方法を模索。連携すれば「負担半分・効果2倍!」

2 子どもたちの「やってみたい!」に「YES」で答えるサークル「SAY YES」 11:10~11:40

松原 裕(鳥取県西伯郡伯耆町) 溝口小学校学校運営協議会所属ボランティアサークル「SAY YES」 代表

令和5年11月、溝口小学校学校運営協議会ボランティアサークルとして結成された。大人たちが子どもの頃に体験した楽しい思い出を今の時代のやり方で子どもたちに提供するサークル。子どもたちの希望を大切にしながら子ども支援していく、まさに、子どもをど真ん中に据えた、子ども支援ボランティアになっている。

活動内容は、工作教室、秋祭り、お花見遠足のゲリライベント、探検ナイトスクール、人形劇等多様。子どもたちが自ら地域で社会体験・自然体験しながら成長する場作りを支援している。

3 親子と地域がつながる体験機会の創出 ～「家族でチャレンジin南さつま」と「親子で楽しむ作文教室」～

11:50~12:20

内田 昭弘(鹿児島県南さつま市) 南さつま市教育委員会生涯学習課社会教育係 社会教育指導員

少子化や家族形態の変化が進む中、親子向けの2事業を企画。「家族でチャレンジ」は物づくりを楽しみながら地域の人々とふれあい「つながり」の大切さを実感してもらうよう企画。夏休みの土曜に県立少年自然の家(水ロケット制作)、海浜公園(発射体験)にて、日本宇宙少年団の指導・協力で実施した。「作文教室」は思い出に残る出来事や身の回りの素材を見つけ、語り合い、書くことの楽しさを味わえるよう、生涯学習コーディネーター資格保有の小学校教員を講師に実施した。



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／大城喜江子 沖縄県浦添市立森の子児童センター
賀来 元彦 福岡県教育庁福岡教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:25~10:30

1 「ぱーらーうがんもー」地域の公園で交流の場づくり

10:30~11:00

儀間 千恵(沖縄県島尻郡南風原町) 南風原町教育委員会 地域コーディネーター

地域に愛されてきた公園が、ポイ捨てや青少年の非行行動など「荒れた公園」となっていることを憂慮した、教育・福祉に携わっているボランティア3人が週に1度平日に見守り活動をしている。開始から1年を迎えるが、子供からお年寄りまで気軽に立ち寄り、地域の談話室的な場所になりつつある。年齢や性別、生活様式の異なる利用者同士が談笑して交流が自然と生まれ、関係者の情報共有の場にもなりつつある。予算やプログラムはなく、日常を大切にしている。

2 図書館がまちを元気にする! ～本に興味がある人もない人も集う交流の場～

11:10~11:40

城本 直子(佐賀県三養基郡基山町) 基山町まちづくり課 参事
基山町立図書館 館長

佐賀県の東部に位置する人口1万7千人の小さな町にできた「基山町立図書館」が、今熱い。今年10周年を迎え、入館者数が145万人突破。個人の貸出冊数も同規模自治体の中で8年連続日本一。新しい図書館は、平成28年4月開館、その1年前には、図書館の「応援団」がすでに発足していた。以来、乳幼児から高齢者まで多世代が交流できる空間を目指し、それぞれが役割を担い様々なイベントを開催してきた。竹あかりナイトに映写会、コンサート、ダンス・パフォーマンス、絵本の原画展、まちの歴史展etc…、ここぞと特徴ある強みを発揮する団体が名乗りを上げてきた。メディアにも取り上げられた。町民も職員もみんな一緒に図書館づくりを楽しんだ。図書館には居場所がある。図書館づくりはまちづくり! 続きは会場で。

3 コーヒー一杯で学習を ～むなかた市民学習ネットワークの40年のあゆみ～

11:50~12:20

小野 誠(福岡県宗像市) むなかた市民学習ネットワーク運営委員会 会長

昭和59年から始まった「むなかた市民学習ネットワーク事業」は、「コーヒー一杯で学習を」を合言葉に、以来40年以上の間、市民の誰もが学べる機会や交流の場を提供してきた。市民がボランティアで指導者となり、その指導者から市民が学ぶことにより「学びの好循環」を実現している。地域の担い手である社会教育活動に関わる人々の減少が顕著になる中、これまで一貫して継続してきた本事業の取り組みや運営の工夫などを紹介する。



第4会場●4F 大研修室

■司 会／石川 英樹 島根県益田市教育委員会ひとづくり推進課 指導主事
高木真由美 福岡県教育庁北筑後教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:25～10:30

1 みんなの居場所は街の雑貨屋さん ～地域コミュニティの力を生かした多世代交流の居場所づくり～

10:30～11:00

前田 香織(福岡県柳川市) ハンドメイド雑貨工房Ducca Sweets (デュッカ スイーツ) 代表
発達障害児支援士

西鉄柳川駅近く、ハンドメイド小物を制作販売する小さな雑貨屋Ducca Sweetsは多世代交流できる「みんなの居場所Ducca」という空間を提供しています。平日の放課後は託児、民間学童事業も展開しています。始めは数人で始まった小さなチャレンジも、現在では年間利用者数のべ1400人以上。個人経営の小さな商店が地域コミュニティの力を生かしながらどうやってここまでできたのか、日々の活動、今後の展望をご紹介します。

2 学校と公民館の一体化 ～世代をつなぎ、地域を耕す～

11:10～11:40

岩坂 菜月(島根県益田市) 島根県益田市立桂平小学校 ふるさとひとつなぎコーディネーター
谷本のぞみ(島根県益田市) 二条公民館 主事

人口約400人。中学校が統廃合でなくなり保育園も休園。町内には小学校が1校という地域。令和7年度学校運営協議会が設置されるタイミングで、社会教育コーディネーターが配置された。令和8年度には現在の学校に公民館が入り、学校教育・社会教育が一体となる複合施設となる。「子どものために」から「大人も一緒に楽しむ」というスタンスの関わりにより生まれる新しい形の学び(合言葉は「レッツ!」～やってみよう、一緒にやろう～)。

3 子ども会組織の消滅危機を巡って ～子ども会加入100%達成と地域の工夫・実践～

11:50～12:20

鵜木 孝夫(鹿児島県始良市) かごしま県民大学中央センター 社会教育指導員

始良ニュータウンは、1980年入居が始まり自治会組織が結成された。人口3,633人、1,609世帯(令和2年6月1日現在)。夏祭りや運動会、文化祭などを通して、住民同志の絆作りをしている。平成26年度からコミュニティ協議会が発足し、青少年育成部を担当しながら、地域の青少年育成に取り組んできた。夏休みのラジオ体操の巡回指導に注力、希望者による体操クラブ支援、学校支援ボランティアコーディネーター、学校評議員としての教育活動支援を続けている。

第1会場●2F 第4研修室

■司 会／朝長 千恵 長崎県教育庁生涯学習課 課長補佐
徳光 慧 山口大学教育学部附属山口中学校 教諭
社会教育士

分科会の進め方

13:45~13:50

1 「ふるさと」を問い続ける 学生団体ブーメランカレッジの挑戦 ～中高生対象の合宿プログラムの工夫と展望～

13:50~14:20

井上弘一朗(愛媛県南予地域) 学生団体ブーメランカレッジ 代表
高田 貞治(愛媛県南予地域) 学生団体ブーメランカレッジ 副代表
濱遊 玲音(愛媛県南予地域) 学生団体ブーメランカレッジ 副代表

地元の中高生・企業と共に「ふるさと」の価値を再発見し、次世代へつなぎたいと、2025年4月に高校の同級生たちが大学進学時に発足した。一度外に出ても「ふるさとに還る」ブーメランのように中高生に「思い出をつくる」「関わり続ける」機会を提供することでやがて「還流」することを目指している。夏休み期間中、中高生に3泊4日の合宿を実施。企業協賛、クラウドファンディングなどで運営し、地域全体をフィールドに多様な地域資源を活用したプログラムを工夫している。

2 主体的に地域づくりに参画する「あぶPRIDE」の育成をめざして

14:30~15:00

守永 弘志(山口県阿武郡阿武町) 阿武町教育委員会 派遣社会教育主事

ふるさと阿武町に愛着をもち、主体的に地域づくりに参画しようとする心意気「あぶPRIDE」を子どもにも大人にも育むことをめざし、学校教育と社会教育が融合した協働・共創のまちづくりを推進している。地域課題に応じた小・中・高校生の地域貢献ボランティア活動「For the Town」、家庭教育支援チームによる子どもや保護者の居場所づくりの取組、学校における多様な地域連携教育の活動等によって、地域、学校、家庭がつながりを深め、子どもと大人との関わり合いが双方の学びを育んでいる。

3 自分らしく社会に関わる若者が育つ3ステップ ～居場所・ボランティア・探究～

15:10~15:40

城所 佑志(島根県邑智郡川本町) 一般社団法人asolab マネージャー

「ふるさと人づくり推進事業」を契機に、中高生を対象に楽しみながら地域の一員として関わる経験を通じた自己形成、地域への愛着を構想し一般社団法人asolabを設立。スタッフを中心に川本町教育委員会、町外の大学生、地域住民、企業、行政職員等と連携。伴走者として対話・振り返り・意味づけを重視する。成長プロセス「実践・挑戦・率先」の3段階の学習循環を実践、居場所・ボランティア・探究を基本コンセプトとする。活動は放課後及び週末に常設拠点を開放する自由参加型。町からの委託費で実施する。成果として地域イベントへの主体的参加者が増加。課題は大人の確保、財源確保などである。

第2会場● 2F 自由研修室

■司 会／山本めぐみ 福岡県北九州市立若園市民センター 館長
山崎 充 大分県立九重青少年の家 所長

分科会の進め方

13:45~13:50

1

明野次世代の会『明野想成熟』の挑戦

～明野創生50年から次の50年へ、世代を繋ぎ、よりよいまちづくりを目指して～

13:50~14:20

和気 勇一(大分県大分市) 明野想成熟 代表

校区公民館の下部組織として発足した。まちづくりに子育て世代の意見を反映するべく「できることをできる範囲で楽しみながら」活動する。メンバーはPTA役員経験者、地域のおやじ・おかんなどを中心に約20名。まち歩きイベントではNPOとの協働事業からスタートし、ノウハウを学びながらアイデアを組み込み独自のまち歩きイベントに発展。明野の魅力再発見を通して子ども達がまちに愛着、興味をもつ成果が見られる。他団体、高校生、大学生の若い世代とも交流。課題はメンバーの高齢化。新たな活動団体が出てくることを期待している。

2

“伝える平和学習”から“伝わる平和学習”へ

～「今日からどのように生きるか」を考える学びの創出～

14:30~15:00

樺島 由彬(福岡県北九州市) 北九州戦争を次世代に伝えていく会 代表

子どもや若者が歴史から主体的に学び、平和や命の尊さを自分ごととして捉える機会を創出したいと2020年に会を設立、平和学習を実践している。具体的には、①従軍体験者への聞き取り取材をもとに漫画作品を制作・発刊、②市民センターや小学校等において講演や手紙「今日が人生最後の日だったら、誰に何を伝えますか」を書くワークショップを実施。漫画は年齢を問わず理解しやすい教材で、読後の対話や振り返り学習につなげている。個人資金のほか補助金、クラウドファンディングを活用している。

3

棚田の景観を再生「ときめく棚田大作戦」に挑戦

15:10~15:40

和田あいこ(山口県長門市) NPO法人ゆや棚田景観保存会 副理事長

長門市にある向津具(むかつく)半島は、日本一の棚田枚数26,000枚を保有し、半島一帯を埋め尽くしている。現在活用されているのは2,000枚程度。これらの藪に埋もれた棚田の景観再生から、ときめき(好き)が育つ棚田「ときめく棚田大作戦」に挑戦し、観光・体験・食・農業の4つの事業を企画連携・展開しており、7年を経て、来場者が0人から3万人以上と増大している。

第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／児玉 淳 宮崎県教育庁生涯学習課地域連携推進担当 副主幹
尾方 英介 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課 社会教育主事

分科会の進め方

13:45~13:50

1 子どもたちに豊かな放課後の時間を

13:50~14:20

梶嶋 謙治(福岡県飯塚市) 飯塚市教育委員会学校教育課 指導主事

飯塚市の放課後児童クラブの取組の基礎は、「学校教育+社会教育の連携」のさらなる具現化を目指した前飯塚市長と元教育長の熱い思いからである。福祉部局から教育委員会へ所管変更後の児童クラブの概要について、これまでの事案や体験・感想を交え現状を紹介する。

2 ヤバイんじゃない!? 自分の心・思いを素直に発信できないなんて ～「本当の自分の思い」→「見える化」実現!～

14:30~15:00

櫻井 真実(熊本県熊本市) 有限会社カジオ企画 代表
ゲームクリエイター・シナリオライター

ゲームクリエイターだから視点が違う。「大人も子どももワクワクさせたい」を基本に地域創生を手掛けてきた進め方は、独創性に富んでいる。「遊び」のように、カジュアルに心の動きを誘い、思いを引き出し、心のスペース・感受性を広げていく。それぞれの心の思いを「感想文」に記してもらおう。すると見えてくるものがあると分析。今どきの「ヤバイの乱発信」から「豊かな表現ができる」に上書きも夢じゃない。さあ、生きる力とともに再起動。体得あるのみ!

3 科学教育ボランティアの取組

15:10~15:40

梶木 満(宮崎県宮崎市) 科学教育ボランティアジョイフルサイエンスクラブ(JSC) 会長

本会は令和元年度に設立。昭和62年に開館した宮崎科学技術館を理科・科学の専門家として退職した教職員等が会員になり支援に当たっている。会員は教育ボランティアとして、科学の経験と知識を通じて、館が行う事業等に協力し、科学する青少年の育成及び生涯学習の支援を行っている。また、館のイベント運営に関し、館単独ではできない創意あふれた事業を企画(JSCサイエンスショー年4回来場者延べ240名)したり、外部からの要請に対応し、科学の楽しさを伝える活動を地道に展開している。チャレンジサイエンス年間30回、4,000名程度の来場者、青少年少女発明クラブ年19回、600名程度来場者あり。

第4会場●4F 大研修室

■司 会／山口 弘子 佐賀県立生涯学習センター 企画員
大屋 裕幸 広島県教育委員会事務局学びの革新推進部生涯学習課 社会教育主事

分科会の進め方

13:45~13:50

1 遠隔2市町の社会教育施設が連携・協働した子供たちの学びの場づくり 13:50~14:20

林 聖人(広島県尾道市) 尾道市河内公民館 館長
赤木 弘史(広島県神石郡神石高原町) 神石高原町油木協働支援センター 事務局長

社会教育施設が有する機能、人材、専門性を生かし、子どもたちの体験活動を軸とした学社連携・融合の推進を図っている。本事例は、遠隔2市町の運営形態が異なる施設間によるコーディネートの新しい学びのカタチを提案する。この取組みは、本物体験学習を通じた学習の深化とともに、地域生涯学習者の意識等の向上につながり、社会教育の新しいカタチにもつながった。今後も地域財産（人材・資源）を有効活用して、様々な学びの成果を学校・地域・社会へと還元していきたい。

2 WAI☆WAI☆りびんぐマルシェ
～不登校やひきこもり等の背景をもつ子ども・若者によりそい、自立をめざした 14:30~15:00
就労準備のためのプロジェクト型の継続支援の場～

松尾 秀樹(佐賀県佐賀市) 認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス(S.S.F.) 理事

ひきこもりの若者にとって、社会参加の機会の蓄積、コミュニケーションスキルの習得、勤労観の醸成、自己肯定感の回復、キャリア志向性の明確化などは、就労に向けて育んでいくべき重要なテーマである。令和2年よりS.S.F.が主体となり、それぞれの若者の状況に配慮しながら地域関係団体などとの連携・協働をはかり、地域資源を活かしつつ工夫を重ね、実践的かつ地域に開かれた就労準備支援を展開してきた。継続的な取り決めを通して参加者の変化や地域とのつながり拡大などがみられている。その実態やいかに！

3 福岡県国公立青少年教育4施設連携協働事業
「ふくおかきっずアドベンチャーキャンプ」 15:10~15:40

姫野 大夢(福岡県福岡市) 福岡県教育庁福岡教育事務所社会教育室 社会教育主事

国立夜須高原青少年自然の家、福岡県立英彦山青年の家、福岡県立少年自然の家「玄海の家」、福岡県立社会教育総合センターの4施設共同実施による年間4回シリーズのキャンプ。

本事業は、各施設を巡りながら、多様な自然体験活動を通じて、こどもの成長を「自然体験活動レジリエンス測定尺度」を用いて効果測定する取り組みを実施している。

また、スタッフがファシリテーターとして子どもたちと関わる際には、共通理解を深め、こどもの資質向上を目指すために開発・運用している「ループリック評価表」についても紹介する。

1st day
5.16 Sat.

第43回大会 特別報告

■時 間／ 16:00～16:30 ■会 場／2F 講堂

「社会教育って何だったのかーごく個人的な経験と思い」

報告者：青山学院大学名誉教授

鈴木 眞理

2nd day
5.17 Sun.

第43回大会 ■時 間／ 9:00～11:30 ■会 場／2F 講堂 特別企画 ミニ講演とインタビュー・ダイアログ

テーマ「子ども・若者の発達と自立を支援する
～何をめざすのか、そのために何をどうするのか～」

第1部 9:00～10:10

「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない

～『声なきSOS』を受けとめる伴走型支援の現在とこれから～」

登壇者：認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事

谷口 仁史

聞き手：九州共立大学名誉教授

古市 勝也

公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム理事長、九州女子大学名誉教授

大島 まな

第2部 10:20～11:30

「社会教育と連携した学校のプログラム改革

～長期宿泊学習(4泊5日)がもたらす学びの質的転換～」

登壇者：福岡県添田町教育委員会教育指導主事

益田 茂

福岡県立英彦山青年の家研修課長・社会教育主事

白土 智章

聞き手：元福岡県飯塚市教育委員会教育長

森本 精造

放送大学名誉教授・社会教育士

菊川 律子

<報告者・登壇者・聞き手プロフィール>



●鈴木 眞理 青山学院大学名誉教授

本大会には10年以上ほぼ毎年参加。特別報告ではいつも自分で決めた「指定席」に座っているが、演題に立つのは居心地が悪い。自覚はないが、すでに後期高齢者。居住地はあの静岡県伊東市。例の市長選挙の際には「適任者なし」と投票、大正解。東京大学の学部では社会学専攻。大学院から社会教育学専攻に迷い込み、もう50年以上。主著に『学ばないこと・学ぶことーとまれ・生涯学習のススメ』学文社、『新時代の社会教育』放送大学教育振興会など。一般社団法人全国社会教育委員連合会長。



●谷口 仁史 認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事

大学在学中から不登校、ニート等を対象とするアウトリーチに取り組む。卒業後、有志と共に法人設立。R6年度までに86万件を超える相談に携わった他、ネットワークの構築や社会的受け皿の創出、執筆や講演など多彩な活動を通じて、孤立・排除を生まない支援体制の確立を目指す。近年はその実績から公的委員を歴任。「社会保障審議会特別部会」、「こども政策の推進に係る有識者会議」等政府系委員を歴任。



●古市 勝也 九州共立大学名誉教授

九州共立大学・九州女子大学・同短期大学生涯学習研究センター所長、九州共立大学スポーツ学部教授、九州共立大学地域連携推進室長を経て現職。日本生涯教育学会生涯学習実践研究所福岡センター長、「西日本『生涯学習御学友』ネットワーク」世話人代表、第34回大会から第40回大会まで本交流会の代表世話人を務めた。



●大島 まな 公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム理事長、九州女子大学名誉教授

九州大学教育学研究科社会教育学講座助手、九州女子大学人間科学部教授、同大学地域教育実践研究センター所長等を経て退職。現在北九州市の公益財団法人の理事長を務める。一般社団法人全国社会教育委員連合副会長。これまで、福岡県と北九州市の社会教育委員、福岡県青少年問題協議会専門委員等を務める。第41回大会より本交流会の代表世話人。共著に『現代教育の忘れもの』『社会教育の核心』『子どもに豊かな放課後を』等がある。



●益田 茂 福岡県添田町教育委員会教育指導主事

福岡県公立小学校に38年間在籍。その間、筑豊教育事務所、社会教育総合センターで社会教育行政に携わった。小学校校長として10年間勤務したのち現職に就いた。10年間の学校経営の軸は常に社会教育で学んだ「つながり」であった。4泊5日の長期宿泊学習だけでなく、「非認知能力の育成」を重視したふるさと学習（体験活動）を全学年で実施。「様々なつながりの中で人は成長していく」ことを日々の教育実践で大切にしている。



●白土 智章 福岡県立英彦山青年の家 研修課長・社会教育主事

福岡県内公立小学校に教諭として勤務した後、福岡県立少年自然の家「玄海の家」にて社会教育主事・主任社会教育主事、国立夜須高原青少年自然の家にて企画指導専門職・事業推進室長を継続して8年間務める。その間、不登校の児童生徒を対象とした事業や長期自然体験活動の企画・立案・実践、利用団体への指導助言、施設運営等に携わる。その後、管理職として自校の5年生の宿泊体験活動（四泊五日）をサポート。令和7年4月から現職。



●森本 精造 元福岡県飯塚市教育委員会教育長

福岡県教育庁社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長、飯塚市教育長を歴任。穂波町時代、全公立小学校に「子どもマナビ塾」「熟年者マナビ塾」の導入、飯塚市では「いいづか市民マナビネットワーク」（e-マナビ）事業の設置。退職後は飯塚市青少年教育施設「サンビレッジ茜」理事長、また「学童と学校の連携」（学社連携）に奔走。令和2年からは「飯塚市筑前茜染協議会」会長として「茜染」（草木染）の復活に取り組む。



●菊川 律子 放送大学名誉教授・社会教育士

福岡県立図書館長や国立青少年機構理事等、福岡県や国で教育行政、特に生涯学習の仕事に携わる傍ら、中央教育審議会の審議に関わった。九州大学では理事として男女共同参画や教育社会連携を担当。放送大学では福岡学習センター所長、副学長として、センター運営や連携業務、リカレント支援等を担当した。

第42回大会開催報告

●大会期日 2025(令和7)年5月17日(土)～18日(日)

●場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者
司会者及び
県別参加者

中国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
鳥取	4	0	18
島根	3	2	23
岡山	1	0	9
広島	1	1	8
山口	2	2	10
計	11	5	68

九州地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
福岡	3	6	145
佐賀	2	0	13
長崎	1	1	20
熊本	4	1	20
大分	1	0	11
宮崎	3	1	8
鹿児島	3	1	10
沖縄	1	0	2
計	18	10	229

四国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
徳島	0	0	0
香川	0	0	0
愛媛	2	1	8
高知	0	0	1
計	2	1	9

中国・四国・九州地区以外			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
埼玉	0	0	1
東京	1	0	10
神奈川	0	0	1
静岡	0	0	1
愛知	0	0	1
大阪	0	0	8
兵庫	0	0	1
計	1	0	23

	発表者数	司会者数	参加者数	総参加者数
総計	32	16	329	377

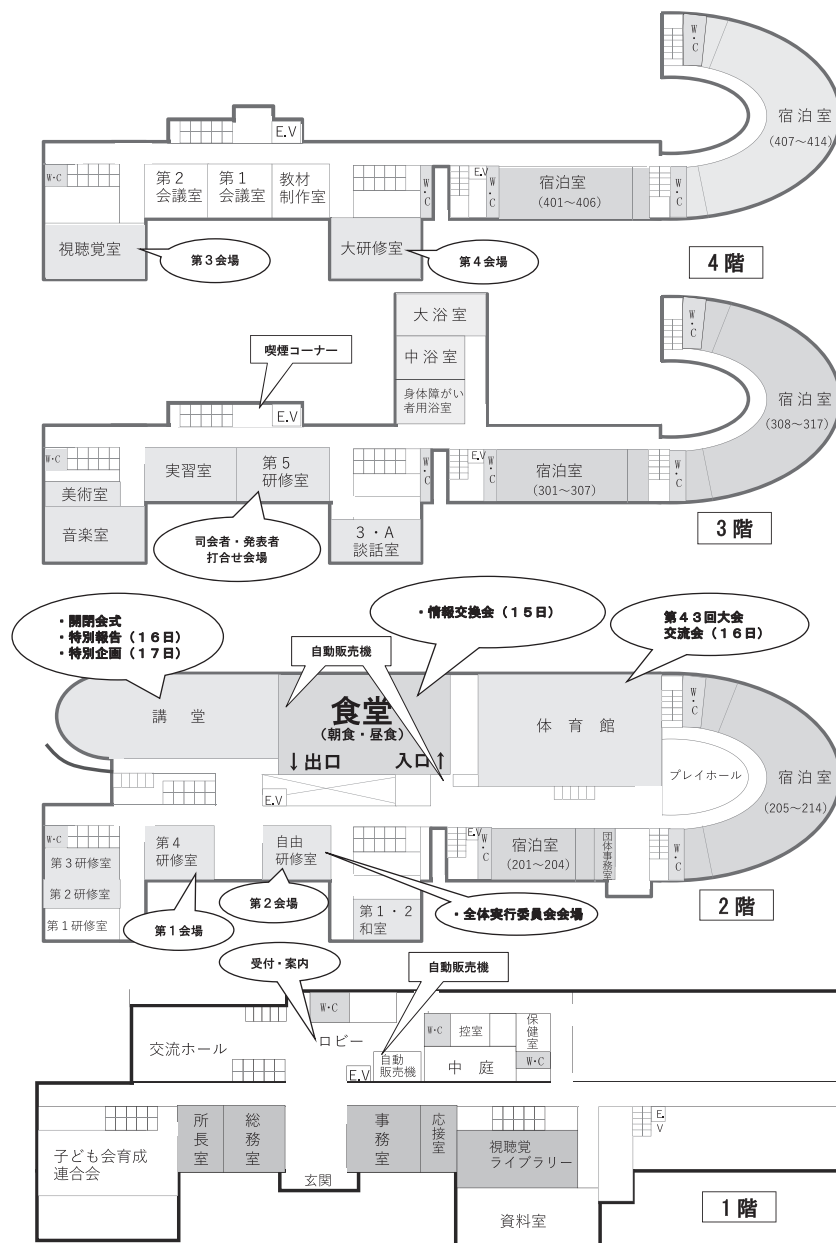
特産品、稀少品ありがとうございました
第42回大会も皆様のご協力により、
たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名(様)	県名	所属名等	特産品名
1	樋田 京子	福岡		緑茶
2	西田 寛司	鳥取	三朝町	カントリーマアム
3	西田 寛司	鳥取	三朝町	いしぼっちのゲルカレー
4	鶴木 孝夫	鹿児島	かごしま県民大学中央センター	桜島
5	大城 喜江子	沖縄	(社)まちづくりうらそえ(森の子児童センター)	砂糖てんぷら(サーターアンダギー)
6	森本 精造	福岡	元飯塚市教育委員会	玉子
7	大島 まな	福岡	一般社団法人全国社会教育委員連合	玄海「沖ノ島」日本酒 手提げセット
8	杉原 潔	広島		はっさくジュース
9	菊川 律子	福岡	放送大学	畔摘みもち(和菓子)
10	緒方 眞由美	福岡	中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会事務局	チロリアン 丸缶
11	緒方 眞由美	福岡	中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会事務局	さかえ屋スイーツセット
12	木原 忠	福岡	中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会実行委員会	岡垣町にあるぶどうの樹ワイン
13	古市 勝也	福岡	九州共立大学	出水に黒鶴
14	小原 恵二	熊本	熊本市生涯学習課	球磨焼酎「大石」特別限定酒
15	紫園 来未	福岡	オフィスしおん	辛子めんたい風味せんべい
16	松井和彦・山森直哉・嶋本光司	福岡	国立夜須高原青少年自然の家	吟醸 久保田千寿
17	御園 楓	沖縄	NPO法人1万人井戸端会議	泡盛つめあわせと塩せんべい
18	濱崎 博志	高知	特定非営利活動法人かみっこベース	高知の特産品
19	酒匂 美貴子	宮崎	生涯学習課	宮崎おやつおつまみセット
20	木嶋 秋子	鳥取	江府町	鳥取の牛骨ラーメン
21	木嶋 秋子	鳥取	江府町	完熟とまとのハヤシ&カレー
22	関 弘紹	佐賀	認定NPO S.S.F	むつごろうふりかけ
23	関 弘紹	佐賀	認定NPO S.S.F	ブラックモンブラン チョコクランチ
24	社会教育課	福岡	福岡県教育庁社会教育課	白い梅酒
25	東川 絵葉	岡山	倉敷市立郷内小学校	倉敷の酒 伊七
26	平林 諒	岡山	国立吉備青少年自然の家	白桃のお酒(岡山白桃果汁使用)
27	東川 絵葉	岡山	倉敷市立郷内小学校	岡山の酒
28	朝長 千恵	長崎	教育庁生涯学習課	GOTOGIN
29	吉岡 康行	広島	海田町立海田東小学校	カープセット(広島茶漬漬+カープ恰恰)
30	山本 正英	岡山	岡山県生涯学習センター	岡山千屋牛の肉使用
31	山本 正英	岡山	岡山県生涯学習センター	B-1グランプリ ひるぜん焼きそばのたれ
32	池上 充	岡山	岡山県生涯学習センター	大手まんぢゅう黒生

番号	氏名(様)	県名	所属名等	特産品名
33	池上 充	岡 山	岡山県生涯学習センター	岡山郷土料理ままかり
34	池上 充	岡 山	岡山県生涯学習センター	岡山県玉野市喜久屋の「どらやき」
35	酒井 慎佐也	島 根	奥出雲市教育委員会	奥出雲たたら産 鋤(けら)
36	志々田 まなみ	東京都	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	銀座木村屋季節限定パン3コ
37	大下 真史	東京都	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	社研60周年 上野パンダセット
38	清永 淳子	熊 本		水俣・芦北 うまいものセット
39	清永 淳子	熊 本		日本最南端酒造メーカーセット
40	緒方 友希	熊 本	美里町立励徳小学校	熊本のアルコールセット
41	徳重 正智	鹿児島	かごしま県民大学中央センター	屋久島産焼酎 三岳
42	市川 重彦	埼 玉	埼玉県社会教育人材プラットフォーム	社会教育士ポロシャツ(ネイビーS)
43	市川 重彦	埼 玉	埼玉県社会教育人材プラットフォーム	社会教育士ポロシャツ(ネイビーM)
44	市川 重彦	埼 玉	埼玉県社会教育人材プラットフォーム	社会教育士ポロシャツ(ネイビーL)
45	市川 重彦	埼 玉	埼玉県社会教育人材プラットフォーム	社会教育士ポロシャツ(ネイビーLL)
46	山崎 新	沖 縄	豊見城市立伊良波小学校PTA	泡盛
47	山下 孝治	鳥 取	鳥取県教育委員会事務局東部教育局	コナンポロシャツ(紙袋つき)Lサイズ
48	山根 聡	鳥 取	鳥取県教育委員会事務局東部教育局	鳥取名産カレー(二十世紀梨カレー・鳥取和牛プレミアム黒カレー)
49	佐藤 貴大	東京都	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	多満自慢こも樽&大吟醸ケーキ
50	陸浦 昭裕	鳥 取	鳥取県教育委員会事務局東部教育局	珍味かにみそ3缶セット
51	戸板 正哉	鳥 取	鳥取県教育委員会事務局社会教育課	鳥取特産砂丘つつきょうと純米吟醸
52	本庄 陽子	神奈川	青山学院大学コミュニティ人間科学部	青学オリジナルパーカーしまちゃん
53	山下 千裕	東京都	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	鳥獣人物戯画文具セット
54	今井 博志	愛 媛	愛媛のおやじ井戸端会議	柑橘Tシャツ
55	今井 博志	愛 媛	愛媛のおやじ井戸端会議	母恵夢(ボエム)
56	今井 博志	愛 媛	愛媛のおやじ井戸端会議	五色ソーメン
57	中尾 治司	愛 媛	国立大洲青少年交流の家	肱川らーめん みそ味
58	中尾 治司	愛 媛	国立大洲青少年交流の家	むぎ茶
59	中尾 治司	愛 媛	国立大洲青少年交流の家	みかんの缶づめ(甘夏)
60	佐野 純也	埼 玉	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	金紋世界鷹
61	山崎 新	沖 縄	豊見城市立伊良波小学校PTA	ユニクロ沖縄限定Tシャツ
62	安田 隆人	岡 山	岡山県教育庁生涯学習課	岡山県高梁市 日本遺産 吹屋の日本酒
63	菅原 恵	愛 媛	愛媛県教育委員会	愛媛のおいしいおかし
64	加藤 健一郎	宮 崎	宮崎県教育庁生涯学習課	本格霧島20度(本ギリ)宮崎限定
65	山崎 充	大 分	大分県立九重青少年の家	かいぞくかりんとう カトリア醤油 韓国苑塩
66	岡田 正彦	大 分	大分大学	臼杵煎餅
67	岡田 正彦	大 分	大分大学	コメ焼酎「耶馬美人」
68	川上 柊維	鳥 取	江府町教育委員会事務局教育課	奥大山の水&えびちゃんポストカード
69	大島 功央	島 根	益田市立東陽中学校	日本酒 扶桑鶴
70	芝尾 文徳	大 分	日出町教育委員会日出町立図書館	大分むぎ焼酎 二階堂 吉四六セット
71	氏原悠・水野浩司	愛 媛	愛媛県教育委員会社会教育課	えひめのおいしいゼリー(しらぬひのゼリー)
72	池口 沙弥香	鳥 取	北栄町	名探偵コナン ファイル&ポストカード
73	瀬戸もとこ・民長博美	熊 本	NPO法人教育支援プロジェクトマスターズ熊本	熊本ラーメン
74	内藤 妙子	福 岡	元大川市教育委員会	小正の梅酒
75	仲村 康子	愛 媛	新居浜次世代ネットワーク	新居浜銘菓
76	水落 義行	福 岡	大川市立宮前小学校	うなぎラーメン
77	小椋 聖也	岡 山	津山「体験の風」実行委員会	高瀬舟ようかん
78	桐 雅幸	島 根	益田市教育委員会	益田製菓 わかめ茶漬け
79	伊豫 健介	熊 本	教育庁社会教育課	熊本ラーメン文龍
80	大森 功資	岡 山	津山キャンプ	岡山地酒飲み比べ
81	久常 祐資	兵 庫	津山キャンプ	灘の白鶴大吟醸
82	伊豫 健介	熊 本	教育庁社会教育課	熊本ラーメン黒亭
83	重田 美咲	鹿児島	龍郷町教育委員会	奄美の黒糖セット
84	中尾 治司	愛 媛	国立大洲青少年交流の家	肱川らーめん とんこつ風
85	中尾 治司	愛 媛	国立大洲青少年交流の家	肱川らーめん しお味
86	中尾 治司	愛 媛	国立大洲青少年交流の家	肱川らーめん しょうゆ味
87	氏原悠・水野浩司	愛 媛	愛媛県教育委員会社会教育課	えひめのおいしいゼリー(みかんのゼリー)
88	氏原悠・水野浩司	愛 媛	愛媛県教育委員会社会教育課	えひめのおいしいゼリー(紅まどんな入り)
89	中尾 治司	愛 媛	国立大洲青少年交流の家	みかんの缶詰
90	中尾 治司	愛 媛	国立大洲青少年交流の家	みかんの缶詰(ボンカン)
91	上野 敦子	山 口	井関にこにこクラブ	山口市あじすきらら浜のはちみつ
92	久保田 啓子	山 口	VOLOVOLOの会	日本酒 五橋
93	浅原 美彩	島 根	飯南町教育委員会	林檎果汁
94	難波 淳	島 根	飯南町教育委員会	ブルーベリージャム
95	山口 文	佐 賀	地域おこし協力隊	鶴屋の佐賀せんべい
96	入江 雅史	鳥 取	西部地区社会教育主事OB会	コシヒカリ
97	市村 恭一	岡 山	岡山県教育庁生涯学習課	おかやま日本酒飲みくらべセット
98	吉長 愛	広 島	広島県立生涯学習センター	瀬戸内レモンジュエリー
99	村澤 孝経	東京都	株式会社ネットラーニング	大仏サブレ
100	宮崎県生涯学習課	宮 崎	宮崎県生涯学習課	辛麺・戸村の焼き肉のたれ
101	飯野 小巻	宮 崎	宮崎県生涯学習課	辛麺・炭火焼
102	宮崎県生涯学習課	宮 崎	宮崎県生涯学習課	辛麺・ゴボシ

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または記入漏れがありましたときは、御容赦下さいますようお願いします。

会場案内図



「ふくおか社会教育ネットワーク」

にて本大会の発表事例は、掲載されます！



その他、福岡県内の社会教育に関するイベント・施設・HPリンクが見られる充実したホームページです。

ホームページアドレス

<https://www.fsg.pref.fukuoka.jp>

ぜひ一度
ご覧ください！



福岡県立社会教育総合センター

住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029